

## 森田草平の『続夏目漱石』にある 「寺田博士の霊前にこの書を捧ぐ」の献辞を見て

千葉 明

私は若い頃からの寺田寅彦と中谷宇吉郎の読書ファンなので、二人にかかわる本はかなり多く買い求め、又コピー等もとって所蔵している。この度も『榊』82号で紹介された『原子力文化』誌の有馬朗人博士による「寺田寅彦随想」を県の図書館でコピーさせてもらったが、仲々見る事の出来ない資料であり、興味深い寅彦関連の内容であった。『榊』ならではの紹介であり有り難かった。

ところで日頃文通をしている寺田寅彦記念館友の会の幹事である徳島の四宮義正さんから夏目漱石の立派な写真入りの絵はがきのお便りを頂き、その写真に見入っている内に漱石関係の本をのぞいて見たくなり、その中から森田草平の『夏目漱石』と『続夏目漱石』の2冊を取り出した。何しろこの本の装幀は津田青楓で発行元は甲鳥書林なので、何かと寅彦や宇吉郎と縁のある本でもある。この2書は太平洋戦争のさ中の昭和17年と18年に刊行されているが、『夏目漱石』は404頁、『続夏目漱石』は842頁の大冊であるのも興味深い。そして『夏目漱石』は発刊後1年間で4版迄も刊行されているから、厳しい戦時中にありながら多くの読者がいたことがうかがわれる。

それはともかくとしてこの『続夏目漱石』に森田は「寺田寅彦博士の霊前にこの書を捧ぐ」と書いている。これ迄この献辞に注目した事がなかったので、改めて注意しながら頁をめくったが、特に寅彦に深く触れている文は見当らなかった。そこで前にもどり前巻の『夏目漱石』を見ると、その緒言に、もともとこの本を書く事になった動機は、寅彦の寄託によって多くの知人や門下生による「漱石言行録」を作ろうと思ったが、思うように門下生の原稿が集らなくて、大分年月も経ってしまったが結局自分一人による漱石先生に対する追憶の本を作ることにしたと書いてあり、それが寺田博士に捧げるの真意であることがわかった。森田は『夏目漱石』の中の「漱石と寺田博士」の中でも、「漱石言行録」の半分位は寺田さんに背負って貰う位の了解でいたし、七、八年前に寺田さんの書かれた原稿も残っているとも書いていた。

ではこの「漱石言行録」はどのようなになったのかを見ると、実は漱石全集（昭和10年版岩波書店）の月報に「漱石先生言行録」として昭和10年10月の第1回から19回に亘り森田草平編（未定稿）として、いわゆる漱石の門下生以外の多くの人々の談話が連載されている。森田は第1回の前がきに次のように書いている。

「……先生を愛していた人ばかりでなく、先生の味方でなかった人々の話をも収録

することにしたい。かう云ふのが、この仕事を着手するに当っての寺田寅彦さんの私に与へられた暗示である。私もそれを道理ある言葉だと思ったからその意見に基いて親疎を問わず<sup>いやく</sup>苟も生前先生を知ってみられる方々の御記憶にある実話なり御感想なりは細大漏らさず出来るだけ多くここに収録して後の世の史料に供したいと考えてゐる。……」とある。

このように森田は寅彦の意図した「漱石言行録」をまず「漱石全集」の月報でその意のある事を示していた。この「漱石先生言行録」の編集は寅彦が亡くなった直後から開始されているが単行本として出版される事はなく、結局森田個人による「漱石言行録」つまり『夏目漱石』正統2巻を書き、寅彦の願いにも応える事になった。

森田は『夏目漱石』の中の「先生の思い出」の中で「誰が一番愛されていたか」の所で「先生の門下生—この言葉も私どもから云ひ出したのではない、世間で附けた名前だが、暫く便宜のために<sup>か</sup>藉りて置く—その門下生の間には、故人寺田寅彦さんのように、先生の方からも、一種の尊敬と愛情を交へた感情で遇されていた方もあったが……」とある。師弟の美しい信頼関係が書かれている。

また森田は『思想』160号（昭和11年岩波書店）の「寺田寅彦追悼号」でも「最後の印象」という文を書き、そこでも「漱石先生言行録」について寅彦に何度か相談した事を書いている。

思えば漱石が亡くなったのは大正5年、寅彦の亡くなったのは昭和10年で、森田は寅彦の亡くなった翌年から未定稿としながらも「漱石先生言行録」を編集・発表したわけであるが、もしかしたらこの「漱石先生言行録」は寅彦が敬愛する恩師漱石の為にしようと思っていた最後の本ではなかったろうかと、私は一人考えたのである。

なお昭和10年版漱石全集の月報に連載された森田草平編の「漱石先生言行録」は、その後、昭和50年に「漱石全集・月報・昭和3年版・昭和10年版」に一括して掲載されており、さらに、平成8年には「漱石全集・別巻・漱石言行録」が猪野謙治によって編集刊行されている。そしてここでは森田編の18編中8編が取り入れられ、他は既発表の別資料からの引用文になっている。そして、ここには寅彦と森田の文も含まれているが、森田が『夏目漱石』の中で述べていた寅彦が「漱石先生言行録」のために既書いてあるとしている未発表の原稿はどうなったのだろうかと私には気にかかるのであるが、これはどこかに発表されているのであろうか。

(2018.12.3.)

